

カラバフへの帰り

はじめに

2020年の第2次カラバフ戦争での勝利、そして、2023年の対テロ作戦の成功により、アゼルバイジャンはカラバフとその周辺の緩衝地帯の全てを奪還し、領土保全を回復することができた。それら、奪還した地域のほとんどは、アルメニアとの戦争に加え、その後に長年放置されたことにより、ひどく荒廃し、多くの地雷や不発弾なども埋没したままとなっていた。しかし、アゼルバイジャンは国を挙げて、カラバフおよび周辺地域の再建、再開発に大々的に取り組んでいる。特に、地雷除去、インフラ整備、住民の帰還、新たな産業の育成、国際的な交通網の整備が、再建、再開発を進める上での重要な柱となっている。本稿では、カラバフおよび周辺地域の再建の試みの状況、展望を明らかにする。

地雷や不発弾の除去作業

カラバフおよびその周辺地域での地雷や不発弾の除去作業は、最も重要かつ危険な作業である。それらがある限り、地域の戦後復興やインフラ再建、避難民の帰還ができない一方、作業中に死傷することも多いリスクの高い仕事なのである。地雷や不発弾の除去作業は、主にアゼルバイジャンの国家地雷対策機関(ANAMA)が中心となって行っている。この作業は2020年の第2次カラバフ戦争後に始まり、アゼルバイジャン軍や国際的なパートナーと連携して進められてきた。奪還された地域に残された126,600以上の対人地雷、対戦車地雷、そして多くの不発弾が特定され、処理が進められてきた。

ANAMAは、道路や鉄道などのインフラ設置地域に加え、避難民が安全に帰還できる地域を優先的に除去しており、それが復興と帰還を可能にするための重要なステップとなっている。だが、作業は容易ではない。アルメニアが提供した地雷原の地図は精度が低く、推定で25%の精度しかない。そのため、全ての地雷を除去するには30年以上、そして250億ドルが必要と見積もられている。

また、国際組織であるHALO Trustも地雷除去に協力しており、国際的な安全基準に従って現地の住民と協力し、特に子供や脆弱な人々を守るためのリスク教育を提供している。

インフラ再建と都市開発

カラバフ地域の再建の鍵を握るのが道路、空港、鉄道などのインフラの再建ないし新設である。インフラ整備が進めば進むほど、地域の再建、発展が容易になるが、それとセットで進められているのが都市開発であり、これらの相乗効果として、人々の帰還も容易になると考えられている。

まず2021年10月に開港したフズリ空港は、カラバフ地域と国内外を結ぶ最初の国際空港として重要な役割を果たしています。

フズリ空港はアゼルバイジャンとトルコの企業によって建設されたが、その建設は、建築資材をヘリコプターで輸送せねばならなかったなど、困難を極めた。だが、同空港の完成により、地域物流センターの設立が可能となり、地域内外の商品やサービスの流れが促進され、地域の発展の基盤となった。3,500メートルの滑走路もある同空港は、大型貨物機を含むあらゆる種類の航空機に対応できるハイレベルの空港であり、国際航空運送協会(IATA)と国際民間航空機関(ICAO)によって承認もされていることから、国際展開が期待されている。

続いて2023年には、さらなる交通利便性を高めるためにザングラン空港も開港しました。これにより、物流や観光、ビジネスの発展が一層促進され、カラバフ地域が国内外の投資を引きつけるための基盤が整った。

カラバフの発展、国際化への貢献が期待されているのが国際交通網の整備であり、カラバフ地域の再建における戦略的重要性も

極めて高い。特に、ラチン回廊とザングズル回廊の意味は多く、カラバフ内外の物流や他国との貿易など、経済発展の鍵を握ると考えられている。

ザングズル回廊は、アゼルバイジャン本土とナヒチェヴァン自治共和国を結ぶ回廊で、2020年の第二次カラバフ戦争後のアゼルバイジャン、アルメニア、ロシアによる和平合意の中でも、開通が定められたものだが、現状では、まだ開通に至っていない。開通した場合には、ロシアのFSBによる平和維持活動が想定されている。この回廊が開通すれば、アゼルバイジャンとトルコ、さらには中央アジアを直接結ぶこととなり、それら地域の通商や国際関係を活発にさせると期待されている。また、アルメニアが国際的な通商の重要地点になる可能性も秘めたルートであると、イルハム・アリエフ大統領は語る。このように、極めて潜在力の高い回廊であり、通過すれば、カラバフおよび周辺地域の経済的・戦略的重要性がさらに高まると見られている。



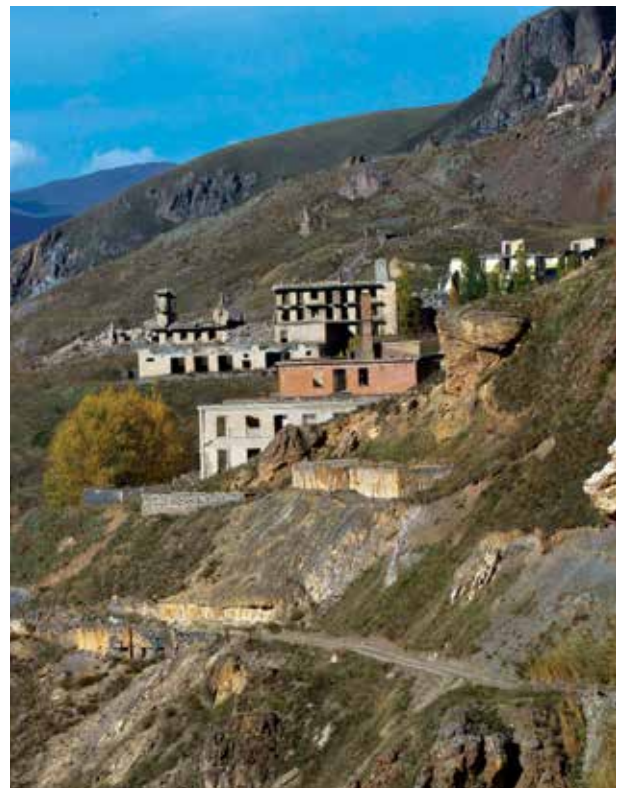


さらに現在、解放地で3番目の空港であるラチン国際空港の建設も進められ、2024年内の完成が期待されている。山岳地帯である同地での空港建設は困難を伴っているが、完成すれば、3,000メートルの滑走路を持つハイレベルの空港となることが期待され、地域発展のみならず、観光の中心にもなると感がられている。

また、地域の発展を支えるのがエネルギーであり、エネルギー供給の安定化も重要な課題となっている。そのために電力、ガス、水力発電などのエネルギーインフラの整備も進められてきた。

電力供給においては、水力発電が中心的役割を担っている。カラバフ地域の水資源を活用し、複数の水力発電所が建設され、電力供給の安定に貢献している。また、再生可能エネルギー源として、太陽光発電や風力発電の導入も進んでおり、カーボンニュートラルなエネルギー供給が目指されている。これらにより、これにより高い地域のエネルギー自給率が期待されている。

さらに、ガスインフラも大規模に再建されており、地域全体での安定したガス供給が実現しています。これにより、住民や企業が安定





したエネルギーを利用でき、地域の経済復興を下支えています。

そして、水道インフラも重要な課題であり、飲料水の供給を確保するための設備が整備されています。水資源の管理が進み、住民への安全な水供給が実現されている。

そして、「スマートシティ」と「スマートビレッジ」構想も奪還地の再建の重要な要素であ



る。地球環境問題にも配慮し、また山岳地帯である地理的バックグラウンドを考慮し、「スマートビレッジ」、「スマートシティ」の積極的展開が、地域の再建の主柱になると考えられており、建設が急ピッチで進められている。2024年11月のCOP29の際にもそれらが紹介される予定である。これらプロジェクトの一環として、デジタル技術や持続可能なエネルギーシステムが導入されている。そのようなシステムにより、現代的な生活環境が整備され、地域住民は最新技術を楽しむことができるようになっている。このような魅力的な新たな村、町は、人々の帰還を促す上で大きな牽引力を持つと考えられている。

住民の帰還・雇用促進と人道支援

カラバフ地域の再建と並行して進められているのが、住民の帰還である。カラバフ紛争によって、数十万人のアゼルバイジャン人が国内避難民となりましたが、アゼルバイジャン政府は、この人々をカラバフに帰還させるための計画「Great Return」を進めている。

そして、住民が帰還するためには、住宅、医療、教育などの基本的な社会インフラの整備が必要であり、加えて、当地での雇用を確保すること、そしてそのためには産業の育成や経済発展が重要となる。

「Great Return」プロジェクトが始まってから、2023年時点で、約10,000人の住民がカラバフに帰還した。帰還者は、再建された都市や「スマートビレッジ」プロジェクトによって再建された村々に定住している。今後は、2026年までにさらに20万人をカラバフ地域に帰還させる計画がある。この計画とリンクするのが、前述の地雷除去作業である。国民の安全な帰還を保障するために、国際NGOや政府が連携して地雷除去を進めている。

そして、カラバフ地域では、紛争後の復興に伴い、商業施設、学校、病院、保育園、スポーツ施設、文化施設の建設が進められています。当地では、新しい商業施設が建設され、



地域経済の活性化に寄与している。これにより、住民の生活物資やサービスへのアクセスが向上し、経済活動が促進されている。

学校や保育園の建設も進行中であり、これにより帰還した住民の子供たちが教育を受ける環境が整備されています。特に、紛争で破壊された教育施設が再建されていることは、住民に希望を与えるだけでなく、未来を担う若者世代の育成となり、とても大きな意義を持つ。そして、学校プロジェクトには外国政府の支援も見られる。例えば、ウズベキスタンはフズリ市に大規模な学校を建設した。また、カザフスタンはやはりフズリ市に「創造力開発センター」を建設中である。他にも、ハンガリーがカラバフ南部のソルタンリ村の再建を担当し、スロバキアがバシュ・ゲルヴェンド村の再建に協力している。これらの国々の支援は、カラバフ地域の復興における重要な国際的貢献となっており、アゼルバイジャンとの関係深化という副産物ももたらしている。

また、病院や診療所などの医療施設も新たに整備され、帰還者の医療サービスへのアクセスが改善されている。これにより、地域の健康水準が向上し、生活の質が大幅に改善されている。さらに、スポーツ施設や文化施設も再建の一環として導入されており、住民の社会生活や文化活動が支えられている。これにより、地域住民の心身の健康促進や、人々の交流の場の提供、さらにコミュニティの強化など、様々な効果が期待されている。

そして、カラバフ地域の再建に伴い、政府は新たな雇用を創出し、地域の経済を復興させるための政策を打ち出してきた。特に、すでに述べてきたインフラ建設や新産業の発展が経済復興の中核となっている。

まず、政府は、インフラプロジェクトを通じて多くの雇用機会を提供しており、地域経済の活性化に寄与しています。インフラ整備は、雇用創出、地域発展という一石二鳥の意義を持っている。また、アゼルバイジャン政府は、カ







ラバフ地域に新たな産業を育成するため、特に養殖業や観光業の振興を進めています。養殖場の建設は、新たな雇用、そして地域の特産物を産む効果を持っている。すでにチョウザメの養殖場がラチンで成功裡に運営されている。また、観光業では、歴史的なシュシャ市を中心に観光地としての再生が進められており、文化遺産の修復やホテルなどの新たな観光施設の整備が行われています。観光もインフラ整備との相乗効果で発展が望まれており、空港や回廊の整備が、観光での成功の鍵となっている。

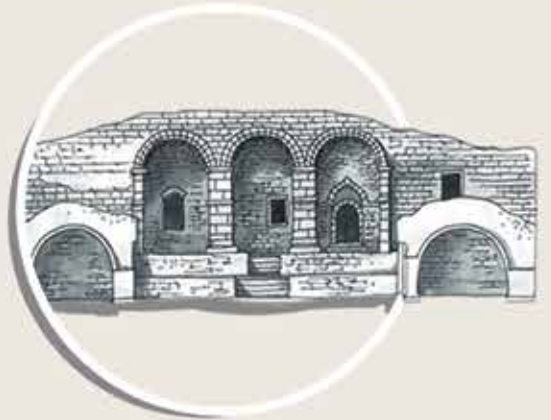
また、カラバフ地域は、伝統的に農業でも著名な地であった。それを復活するために、政府は、戦争で荒廃した農地を再生し、灌漑システムを修復して生産性を向上させる取り組みを進めています。すでにブドウ園などが復活している。

おわりに

以上、述べてきたように、アゼルバイジャンによるカラバフ再建は、地雷や不発弾の除

去、交通インフラの整備、スマートビレッジやスマートシティの建設、住民の帰還、エネルギー供給、そして新産業の育成などを通じ、多方面で進められている。その際、人権や環境への配慮も深く行われており、まさに「人に優しい」計画であると言えるだろう。カラバフの再建は成功裡に進んでおり、住民の生活満足度も高いと考えられ、今後、再建が進めば進むほど、人口も増え、経済もより活性化してゆくことだろう。

現在、世界では多くの紛争があり、多くの地で戦後復興の問題が深刻に議論され、進められている。戦後復興は容易ではなく、そのプロセスがうまくいかないことにより、地域の不安定化が継続し、紛争が再発するようなケースも少なくない。しかし、カラバフのケースは、まさに他国にとっても戦後復興の国際的なモデルにもなると考えられる。✿



カラバフは
アゼルバイジャンだ

